

「男女共同参画推進フォーラム」に参加して

小山市では、男女共同参画社会の実現と、女性の活躍推進を支援しています。当フォーラムは、2019年8月29日(木)～31日(土)埼玉県嵐山町にある国立女性会館において開催され、小山市男女共同参画推進協議会の会員20人が参加しました。



男女共同参画推進フォーラムは毎年開かれ、全国から1,200人以上の方が参加されます。令和元年度は「つなぐ、あらたな明日へ～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～」を掲げ、活発な情報交換がなされました。初日の29日は特別公演・トークセッション「日本国憲法に女性の権利を～母ベアテ・シロタ・ゴードンの願い～」として、長女のニコール・A・ゴードンさんが話をされました。この講演は国立女性教育会館

のホームページに動画が載っています。その動画を見て改めてベアテさんの功績に感動しました。

30日は午前ワークショップ、午後シンポジウムの日程でした。私が参加したのは、NPO法人が運営する「誰も取り残さないインクルーシブ教育を考えよう」のワークショップです。インクルーシブとは、インクルージョンという言葉が原型で「包摂」と訳されるようです。イメージは大きな石や小さい石で相互に支え合う石垣です。まず日本の教育の歴史と政府の取組について説明され、現状の学校教育とその背景を紹介されました。日本では学習障害を含めた適応障害と言われる子どもが、平成5年から平成30年の間に約1万2千人から8.9倍の11万人になり、特に小学校での増加が目立つそうです。その対応の事例がいくつか紹介されました。NPO法人代表の眞島さんの息子さんもその一人とのことで、息子さんが支援学級へ(※)通級した感想のうち、「支援学級は監獄」という言葉に胸がつまりました。子どもたちには多様な友達と遊ぶ経験が必要なのではないか。子どもが学校に合わせるのではなく、学校が子どもに合わせてほしいという言葉が印象的でした。その後、新しい取組を始めた学校等が紹介され、考えさせられました。

※通級：通常の学級に在籍しながら個別に特別支援教育などを受けること。週に何時間か通う。

午後のシンポジウムは「基本法から20年～今こそチャレンジ！政治分野への女性の参画～」と題し、東京大学名誉教授の大沢真理さんをコーディネーターに3人の女性シンポジストが話をされました。「男女共同参画社会基本法」成立から20年がたち、一昨年「政治分野における男女共同参画推進法」が施行され動き始めました。大沢さんは基本法制定時から携わっており、20年の成果として法整備はできてきたが、課題としてひとり親への支援は低く、低所得層への税は重いことなど資料を見せながら話をされました。3人のシンポジストの方々もそれぞれの取組について説明をされました。社会の政策や財政など生活につながる施策に関わる議員に、女性が参加することはとても大切です。地方でも国会でも一人でも多くの女性が活躍できる時代になるよう私も応援したいと思います(シンポジウムの内容はホームページで見ることができます)。翌日もワークショップが開かれ、ロビーでは期間中、男女共同参画に関する様々なパネル展示があり3日間が終了しました。